

畜産におけるJGAPの取組み

畜産における日本版農業生産工程管理とは？

JGAPは、農業生産活動の持続性を確保するための取り組みで、

- 1) 食品安全・家畜衛生・環境保全・労働安全・アニマルウェルフェアに関する法令等を遵守するための点検項目を定め、
- 2) これらの実施、記録、点検、評価を繰り返しつつ生産工程の管理や改善を行う取組のこと。

2023年3月現在の畜産におけるJGAP認証取得状況

- 2017年3月にJGAP家畜・畜産物の基準書を公表、同年8月から農場の認証を開始。
- 担い手の育成等のため、農業教育機関を中心にJGAP認証取得の取組が拡大。

認証された農家の数

合計	畜種別				
	乳用牛	肉用牛	豚	採卵鶏	肉用鶏
277	50	88	55	52	32



注：複数の畜種において認証取得している場合でも、主な畜種のみをカウントしている。

農業教育機関におけるJGAP認証取得状況 (2023年3月現在)

14校の農業高校と6校の農業大学校・大学が第三者機関によるGAP認証を取得。

宮崎県立農業大学校

認証品目：乳用牛、生乳、肉用牛

<JGAPの取組後の主な効果>

- ・農場内の整理整頓が維持されるようになった。
- ・記帳、記録の意識が向上し、在庫管理が適正に行われるようになった。
- ・手順書により作業の平準化が図られ、生産物の品質が安定するようになった。

鹿児島県立農業大学校

認証品目：肉用牛、乳用牛、生乳、豚

<JGAPの取組後の主な効果>

- ・2018年度からJGAPに基づく飼養管理作業を徹底している。
- ・すべての学生が高いレベルで農業生産工程管理に心がけた。
- ・鹿児島県乳質向上共励会において2019年以降3年連続で最優秀賞を受賞。



JGAPの講義



JGAP認証書



学生



農大祭で牛肉販売